

## 天拝山

筑紫野市にある天拝山は、歴史上の人物である菅原道真公とその神霊である天神様にまつわるいくつかの伝承や出来事の舞台である。

天拝山（標高 258m）は太宰府天満宮と深い関係があり、天満宮の伝承や祭礼の中で重要な役割を果たしている。太宰府天満宮は高名な学者であり、詩人であり、政治家でもあった菅原道真公（845-903）を祀っており、道真公は学問、文化、芸術の神である天神として神格化されている。道真公を嫉んだライバルからの讒言により、901 年に京都の朝廷から左遷された。彼は大宰府に送られ、そこで困窮した生活を送り、2 年後に亡くなった。伝承によると、左遷されていた時期、道真公は暴風雨の天拝山の頂に登り、天に向かって自身の無実を訴えたという。

紫藤の滝は天拝山の麓にある小さな滝で、道真公は山に登る前にそこで身を洗い清めたと言われている。滝行の際には、道真公は滝のすぐ左の岩に衣を横たえたという。

天拝山は、太宰府天満宮の最も重要な年中行事である神幸行事で中心となる地である。神幸行事の前に、参加者は紫藤の滝で清めの砂（お汐井）を集め、それを持って神社に戻る。式典の間中、天拝山の麓にあたる大門地区の住民は、山頂で「むかえび」と呼ばれる篝火を焚く。この炎は、天神様が太宰府天満宮から道真公の邸宅があった榎社まで行く儀式の間、その御霊を迎えるため

のものである。

天拝山には他にもいくつかの史跡があり、その中には道真公が創建したとされる御自作天満宮や、奈良時代に創建された九州最古の仏教寺院のひとつである武蔵寺などがある。山頂までの登山道には、道真公の和歌が刻まれた石碑が並んでいる。